

## 令和7年度3学期始業式式辞（全日制）

皆さん、あけましておめでとうございます。

「新しい挑戦と前向きな姿勢が求められる」と言われる午年。今年、皆さんはどんなことに挑戦しようと思われましたか。そして、それを成功させるためにはどのような努力が必要なのでしょうか。

さて、今年の正月の箱根駅伝では往路・復路ともに新記録で青山学院大学が優勝しました。特に、5区の山登りの区間をキャプテンの黒田朝日君が異次元の走りで形勢をひっくり返したことは驚きです。そして、従来の区間記録を約2分更新したことは、多くの皆さんも知っていることでしょう。近年青山学院大学は常勝を続けていました。しかし、大会直前1区に登録した選手が体調不良となり、本来は別の区間を走る予定だった選手が急きょ1区を走ることになりました。その結果、チームは16位と出遅れます。その後、各区間の選手が懸命な走りで着実に順位を浮上させましたが、首位とは差が広がる一方でした。この絶望的に思えた状況を黒田選手一人が打開したのです。黒田選手の走りを青山学院大学の原監督は、「ほれぼれした。箱根史上最強で、シン・山の神だ。」と語り、黒田選手は「シンという言葉には、新しいという意味も、真という意味もある」と語っています。黒田選手が4区の選手からタスキを受け取った時、首位の中央大学との差は3分24秒でした。これは黒田選手の想像を超えた、まさに想定外のタイム差だったと思います。しかし、キャプテンとして部員をまとめてきた責任感や、その中で育まれた自信。そして、原監督の「輝け大作戦」の発令。こうした後押しを受け、選手一人一人が「箱根を制する」という目標を合言葉に、やるべきことを粛々かつ淡々と積み重ねてきた。その積み重ねへの自信があったのでしょう。「必ず首位でゴールする」という強い思いを胸に、失敗を恐れず、スタートからトップギアで山登りの挑戦を始め、夢を実現させたのです。一般的にランナーは、前半頑張りすぎると後半バテてしまい、失速してしまうと言われています。その定説を打破する黒田選手の挑戦だったのです。これらのことから、自分の夢を叶えるためには、想定外の事態に対応するためには、失敗を恐れず挑戦するためには、どうすればよいのかを考えさせられました。

そして、私は生徒の皆さんに、自分の夢を叶えるために、次の3つを意識して3学期を過ごしてほしいと考えています。

**一つ目は、具体的な目標を設定することです。**

「蒔かない種は生えない」と言われるように、学習でも部活動でも種を蒔かなければ何も実りません。具体的な目標を設定し、それに向けて「やるべきこと」を決め、実行するのです。いつ、どのようにやるかという順番や方法をよく考えて、計画を立てることは、自分の夢の花を咲かせる種蒔きなのです。

**二つ目は、「想定外」に対応できる力をつけるということです。**

近年はオンラインで学べる環境が整い、通信制高校の人気も高まっています。知識を得るだけなら、効率性や経済性の面でオンラインの方が優れているようにも思えますが、学校では、先生や先輩、友だちとの関わりの中で、それまで興味のなかった分野に関心を抱いたり、思いがけない出会いによって才能が開花したりする可能性があります。また、学校生活のいろいろな場面を通して、相手の表情や声のトーンから気持ちを察したり、意見の衝突や失敗をくり返しながらい人との距離感を学んだりして、想定外の事態に対応する力を身に付けることができるのです。知識だけならオンラインで十分ですが、偶然や想定外を含めた「一人ではできない経験」をする場こそが、本来の学校の姿だと私は考えています。

**そして三つ目は、「ミス」と「失敗」は違うということです。**

「ミス」とは不注意によるもので、「集中していればできること」ができなかった状態です。一方、「失敗」とは、できないことに挑戦した結果、うまくいかなかったことを意味します。つまり失敗とは「成長のための挑戦（チャレンジ）」そのものなのです。挑戦した結果の「失敗」を「ミス」と混同してしまうと、人は萎縮してしまい、その不安から「言われたことしかやらない」指示待ち人間になってしまいます。「失敗とは、次に成功するための経験である」と捉えること。難しい問題に挑む、新しいプレーに挑戦する。そこでうまくいかなかったとしても、それは恥じるのではなく、皆さんが「難しいことに挑戦した」という確かな証です。そして、「あなたならできる」と言い合える環境を、みんなでつくっていきましょう。他人を励ましても、或いは他人に乱暴なことを言っても、すべて脳はその言葉を自分自身に言っていると判断すると聞きます。ならば、仲間を励ましながらい、自分自身も励ましていきましょう。

皆さんには、午年にふさわしく、新しいことや夢に挑戦し、失敗を恐れず、たとえ失敗しても前に進む強い心を持ってほしいと願い、今年最初の式辞とします。